

課題番号	5-1	分野名	鳥獣	予算区分	国庫・県単
研究課題名	獣害対策としての森林整備手法に関する研究 〔効果的な緩衝帯整備手法の検討〕				
担当者名	丸山 哲也・矢野 幸広		研究期間	平成24～26年度	

目的

イノシシ等の野生鳥獣を人里に近づけないための里山林整備施工地において、獣類の出没に与える施業の影響について分析し、より効果的な整備方法を提案する。

方法

調査は、鹿沼市深程地区において行った。平成23年6月23日に、整備区域、山側、里側にそれぞれ3～4台のセンサーカメラを設置した(図1)。平成25年6月までのデータについて、カメラごとに、延べ撮影頭数を有効カメラ作動日数(CN:カメラナイト)で割ることにより、撮影頻度を計算した。なお、里山林整備は平成23年12月19日から平成24年1月14日に実施され、管理は平成25年3月1日から3月2日に実施されている。

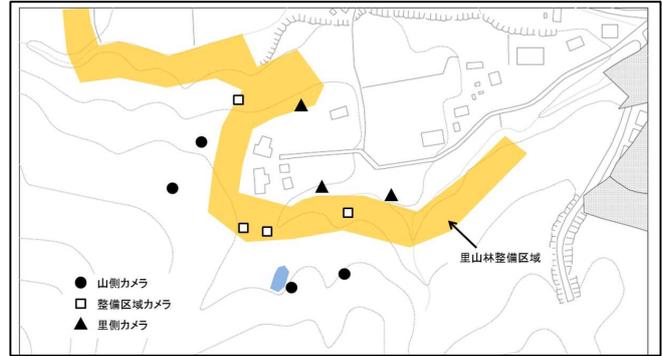


図1. 調査地

結果概要

各カメラの撮影頻度を、区域ごとに平均して図示した(図2)。イノシシについては、整備前は高い頻度で里側において撮影されていたが、整備後は山側や整備区域内よりも低い値で推移する傾向であり、整備の効果はあったと考えられる。シカについては、整備後の里側の値は山側や整備区域内よりも低い値で推移する傾向であったが、月によっては高い値を示すこともあり、今後の推移により効果を検討すべきと思われる。

整備区域内では、シカ、イノシシともに下草の繁茂が始まる5～6月に撮影頻度が上昇する傾向であった(図2, 3)。管理を夏場もしくは収穫前の時期に行うことにより、より高い出没抑制効果が得られる可能性が考えられた。



図3. 夏期の整備区域の状況(7月16日撮影)

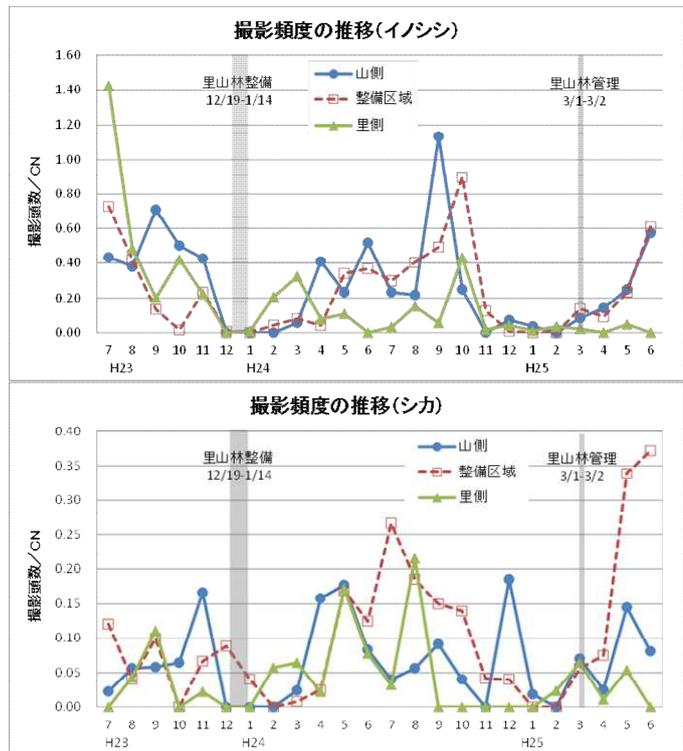


図2. 月別撮影頻度(延べ撮影頭数を有効カメラ作動日数(CN:カメラナイト)で割った値)の推移。カメラごとに計算した撮影頻度を区域ごとに平均して示す。